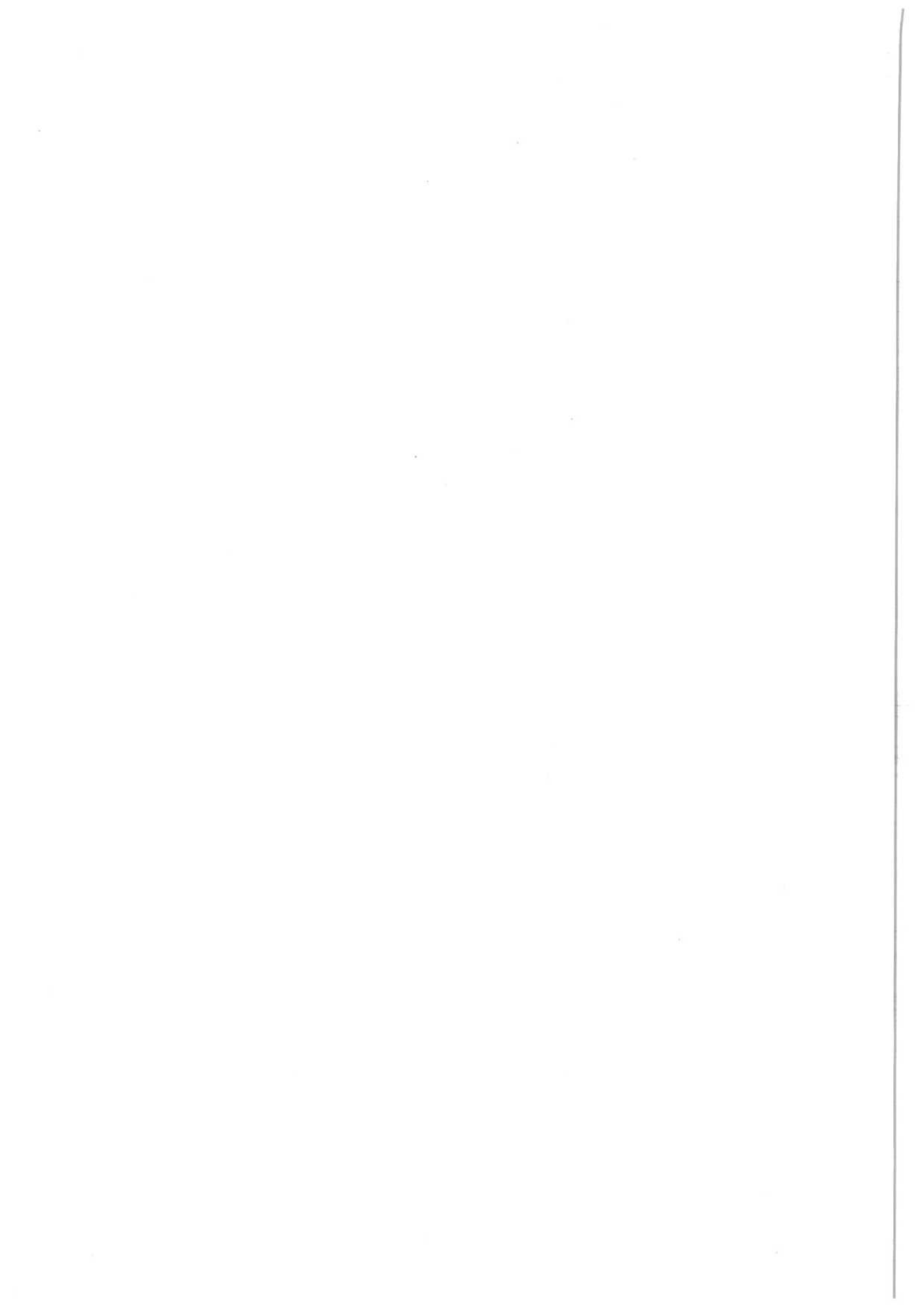

第 2 章

公民館事業のあゆみ

〈昭和62年～平成8年〉

(1987)

(1996)



1. 保育室と公民館

公民館開館と同時にスタートした保育室活動は、自主サークルの保育予算の凍結や、さまざまな試行錯誤を経て10年後の昭和61年頃には運営も落ち着いてきた。昭和62年度から現在までの10年間は、10年かけて作ってきたシステムを生かしつつ、母親にとっても子どもにとっても保育室がより学びの場になるような取り組みをめざして運営してきたと言える。

<講座について>

昭和62年度以前から平成2年度まで、保育室併設講座は全職員が担当していた。それは、保育室併設講座の中身が担当者以外の職員にとって大変見えづらいこと、保育室での母親と子どもの学びの実践が、年齢や性別に関係なく人間らしく成長していくことを支える公民館の職員にとって、一度は担当すべき重要な講座であるという理由からであった。しかし、平成3年度からは、保育室併設講座以外に重点的に取り組むべき事業が増えてきたことを理由に本館2名、分館各1名ずつの職員が担当するようになった。したがって年間のコース数も減少するが、1コースあたりの実施回数を増やして行うようになっている。

<保育室運営会議について>

保育室に子どもを預けることから見えてくる問題を大人の学習としていくために行われている保育室運営会議は、昭和62年度以前から平成8年度まで行われているが、平成3年の後期から自主サークルにも参加を呼び掛けて行っている。以後数年間は、講座の参加者、保育者、職員、自主サークルのメンバーの四者の参加で行われるが、主催講座の保育と自主サークルの保育のそれぞれの課題に開きがあり、学習が深まっていけないという問題に直面し、話し合いの結果、自主サークルを含まない三者で行うスタイルに戻すこととなる。

話し合いのテーマについては、保育者と担当職員で行う担当者会議で当初より決めているが、各コースの課題により即したテーマで話し合えるよう、保育室だよりをもとにした話し合いへと変わってきている。

保育室運営会議で話し合われた内容は、講座プログラムに毎月1回組み込まれている「保育室学習会」で報告され、各コースでさらに学習を深めていく形を取っている。保育室学習会では運営会議のテーマに基づいた話し合いの他に、各コースの保育室だよりをもとにした話し合いの時間も設けられている。

<保育室連絡会について>

公民館保育室を使って活動する自主サークル間の交流を深め、情報交換をしながら保育について話し合っている場として、昭和63年度から松林分館で「保育サークル交流会・学習会」が実施されている。遅れて平成元年度からは本館において「保育室連絡会」がスタートしている。別々の日に活動し、普段は顔を合わせる機会のないサークル同士が保育室の使い方やおもちゃについて話し合うことから始め、公民館の保育室で活動していることの意味を学び合う場となるよう働き掛けている。保育室連絡会では平成2年度に「公民館本館保育室のトイレ、手洗い場設置」の署名の提案が出される。そして翌平成3年度にはトイレ、手洗い場設置にあたり、他市の公民館保育室視察を行う。連絡会の活動が実り、その翌平成4年度に設置工事が行われ、本館保育室に子ども用のトイレと手洗い場が設置された。

以上が公民館保育室をめぐるこの10年間の動きである。

市民主体の 公民館保育室活動をめざして

公民館保育室保育者
田中加代



《社会状況の変化》

福生市の公民館が創設され、保育室事業が実施されて20年になりました。この間、保育室利用をめぐって、予算の凍結問題が起きたり、名称が保育室から幼児室に変わったりと、様々に変化してきました。

一方、社会状況もバブルの崩壊、高齢化、少子化傾向に加え、自然環境の破壊、温暖化など著しい変化が起きています。

こうした状況の変化は、地域での子育てや、親子の関係にも様々な影響を与えていると思われまます。ちょっと見た印象では、産む子どもの人数が減った分、子育ては楽になったように思われがちです。以前は子連れでの外出は本当に稀なことでしたが、この頃見かける親子は着ているものも洗練されているし、ファミリーレストランなどで食事をしている姿など、とても楽しそうで苦勞なしに見えます。最近では子育て支援という名のもとに、劇場やコンサートホールに託児室が完備され、子持ちにはほとんど無縁であったコンサートや観劇も子どもを預けて気軽に楽しめるようになってきました。女性は子育てから解放されたようにさえ見えます。

しかし、本当に子育ては楽になり、解放されてきているのでしょうか。

《いま母と子は》

公民館保育室に子どもを預けて講座に参加して

いるお母さんたちの発言を聞いてみると、子育てに戸惑い、悩み、苦痛すら抱いている姿がまざまざと浮かび上がってきます。

『私は子どもを育てることができない』『子育てを私は失敗してしまいました』『良いお母さんになりたいのに、どうしてもなれない。子どもを傷つけてばかりいる』などなど、溜息や後悔があふれています。時代が進み、21世紀を迎えようとしている今でも、女性たちは理想の母親になることを求められ、それに応えようともがき苦しみ、子どもは3才までは母親と家庭にいるのが一番幸せであるという育児感にしばられ続けています。

少し前までテレビでも話題になっていた『公園デビュー』も、近頃では『よその子どもとうちの子をどう関わらせたら良いかわからないし、私もよそのお母さんたちとどう接して良いかわからない。だから公園には行きません』『公園に連れて行くとしても、トラブルを起こさないよう、なるべく子どものいない時間帯や場所を選んで連れて行っています』という発言も出てきます。仲間を求めて公園から公園へと親子で巡り歩いていたのに、今では人との関わりを求める力もなくなってきているようです。

核家族育ちの母親たちは、先輩からの知恵や情報を得るチャンスも少なく、その結果、幼児に対する生活リズムや栄養について、また病気への対応についてなどの知識も驚くほど乏しくなっています。高学歴を持ち、かつては社会に出て、職場ではいきいきと自信を持って活躍してきたであろう女性たちが子どもを抱え、孤独に落ち込み、相談する相手どころか会話する相手さえいないような現実に出会うたびに、女性と子どもが対になり、社会から孤立している現状が見えてきます。

《公民館保育室とは》

そうした幼い子を抱えた母親たちにむけて公民館保育室は、子どもを預けて共に学び合う中で、

自分たちの暮らしの状況に気づいていけるように、そしてその中から問題をつかんで学習の課題としていかれるように、さらにその学習を通して自分たちの生き方をつかんでいかれるように援助しています。

また、公民館の保育室は次の3つを保育目標としています。

- ①子どもの人格を尊重し、人権意識を育てる。
- ②子どもの自立を支える。
- ③子どもの社会的成長を支える。

この目標を保育室の理念として実践することは、保育室を託児サービスや子ども一時預かり所にしていない公的教育機関としての公民館保育室の原則であると言えます。

現在、福生市公民館では、本館、松林分館、白梅分館の3つの館で、幼い子を育てている母親を対象にした主催の保育室事業が開催されています。しかし、講座終了後、自分たちの力で学習活動を継続していくために、自主的なサークルを作ることが、今ほとんどありません。

この事実は人との関係を編んでいく力が弱くなってきている現状を象徴しているかのようです。けれどこのことは決して参加者だけが問題なのではありません。自主サークルとして仲間と共に学習を継続させていけるような力をつけるために、講座の学習が取り組まれていることこそ大切なのです。公民館保育室の講座は、単に知識や情報を得るためだけに行われているわけではありません。自分の力で考え、自分の言葉で意見を述べる。また、人の意見をしっかり聞き取る。こうした力をつけていくような学習の仕組みが必要なのです。そして、なによりも女性問題の視点に立った学習であるということに意味があります。講座の参加者一人ひとりが信頼し、期待し合うことの大切さ、喜びを共同でつかみ、共に女性問題を解決していく主体となっていくように、職員と保育者が協力し合って取り組んでいかねばなりません。

また、福生市では自主サークルについては保育予算がついていないので、その運営はサークルによってまちまちです。保育者を頼んだり、交代でサークルのメンバーが保育当番をしたりしています。サークル同士が交流し合うことも少なく、保育室理念に基づいた学習も成り立ちにくいのが現状です。

市民の学習権を保障するという公民館の視点からも、主催講座の保育室と自主サークルの保育室が同じ公民館保育室としての理念で運営されなくてはなりません。

これらのことは福生市公民館保育室が抱えている大きな課題であると言えます。

《福生市公民館保育室のこれから》

福生市の公民館保育室は、20年間の歴史の中で、様々な人たちに支えられ、歩み続けてきました。さらに保育室活動がより確かな活動になるよう、私たち保育者集団は他市との研修会に参加し、また、保育者間同士の研修も定例的に持ち、学習を重ねています。しかし、保育者だけの力で公民館保育室は成り立つものではありません。職員と保育者によって行われている担当者会議において、講座の学習の視点と、保育室の保育活動の視点を確かめ合い、共通の理解を持って取り組んでいく努力を重ねていく必要があると考えています。これからも私たちは公民館保育者としての役割、認識を持ち、研鑽を重ね続けていきます。

保育室からの贈り物

公民館保育室参加者
安田 雅子



学校で学び、就職して社会の一員としてずっと働いてきた私は、第三子出産にあたり、少しゆっくり子育てをしてみたいと思うようになっていました。年の離れた上の二人の子は保育園に通わせてきたので、いわゆる子育てに専念という時期がほとんどなかったためです。そこにはより理想的な子育ての環境があると、漠然と思い込んでいたのです。

ところが現実はどうも違う様でした。マンションの壁の中に閉じこもった、子どもと二人だけの生活、近所に小さい子どもがいないのか、外に出ても子どもの集団に行き会えない、一日大人同士の会話が全くない、気分転換できる時がない。何より社会から取り残された様な気がして、孤独と焦りが押し寄せてきます。

こんな刺激のない状況は、私にとっても、そしてひょっとしたら子どもにとってもよくないのではないかと感じている時に、公民館保育室と出会ったのです。

はじめは、自分にとって気分転換できる時と何かを学びたいという欲求が主で、子どもには仲間ができれば…程度の考えで参加しました。けれども保育室の皆さんの考えに触れるうちに、どうやら保育室は、ただ子どもを預かってくれるだけではない、もっと大きな意味のある所だったのだと気づいてきたのです。

そもそも子どもは、ある程度社会の中で育っていくものだと思うのに、今の社会の中では「母と子」以外の人たちと関わっていける機会があまり

にも少ない。そんな中で保育室では、保育のおばちゃんたちの暖かい眼差しがあり、子ども一人ひとりの人格を尊重しながら、安定した子どもたちの集団を築いていける様に積極的に働きかけているのです。

子どもは他に子どもがいなければ、社会の第一歩である仲間を作り出すことはできません。関わり方を学ばせん。「保育だより」による報告から、回数を重ねるごとに、子どもがいつかお互いを観察しリサーチし、自分もやってみたい、真似してみよう、一緒にできると楽しいという思いを少しずつ体得していく姿を見せつけられ、こういう経験は決して「母と子」だけの世界では作り出してやれないと痛感したのです。私自身講座で学ぶことができ楽しかったのですが、後半ではむしろ、子どものために参加したいという思いの方がずっと強くなってきました。

また、私自身に関して言えば、社会から隔離された様な焦りというものがまずあって講座の門を叩いてみたいというのがきっかけではありましたが、保育室講座を通して、今は決して社会からリタイアしてしまっただけではなく、新たな人生を生きるために、いったん初心に戻って模索するモトリアム期間なのだと思う様になりました。私は何をしたかったのか、これから何をやっていくべきか、どう生きていくべきか…。いろいろ考えていける好機なのだと思える様になったのです。そしてそんなことをゆっくり考えながら、今は子どもとの時間を楽しんでいける時なんだと、気持ちにもゆとりがでてきました。

一日一日新たな成長を遂げていく子どもの姿は本当に素晴らしいです。私自身そんな姿を目にして、まだまだ成長していけると心から思えます。月並みな言い方ですが、保育室に一言、夢と希望をありがとう！

昭和62年度

母と子のコミュニケーション学

期 間 昭和62年5月21日（木）～9月17日（木）午前10時～正午 全15回

会 場 公民館集会室

参加者 14人×15回=210人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 21	オリエンテーション	講座の説明	
28	仲間を知ろう	自己紹介	
6. 4	保育室とは	保育室はどうしてできたか	熊谷 真弓
11	保育室から（保護者学習会）	保育日誌から	増田 公子
18	母と子のコミュニケーションⅠ	母と子の現状、問題	熊谷 真弓
25	Ⅱ	母と子の現状（話し合い）	
7. 2	Ⅲ	子どもの成長について（話し合い）	
9	保育室から（保護者学習会）	保育日誌から	高崎 文江
16	母と子のコミュニケーションⅣ	かかわり、つながりとは（話し合い）	
23	Ⅴ	子どもの成長のとらえ直し（話し合い）	熊谷 真弓
30	父親とのコミュニケーションⅠ	大人自身の成長とは	熊谷 真弓
8. 27	Ⅱ	夏休みのようす、前回の課題（話し合い）	
9. 3	保育室から（保護者学習会）	保育日誌から	中川キミ子
10	地域でのコミュニケーション	地域のかかわりとは（話し合い）	
17	まとめ	自主化に向けての話し合い	

お父さんも一緒につくる保育室

期 間 昭和62年5月22日（金）～9月25日 午前10時～正午 全10回

会 場 公民館第2集会室

参加者 9人×15回=135人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
5. 21	オリエンテーション		
5. 29 6. 5 6. 12	自 己 紹 介	各自の生いたちから現在の子育てまで、書いてもらった自己紹介文を読みながら、お互いを理解する。	
6. 19	保育室学習会	保育室の子どもたちの様子を保育者から聞き、育児のあり方について研究する。	中村けい子
6. 26 7. 3 7. 10	主婦ってなんだろう	家庭の中での女の役割、男の役割とは何かを考えながら、主婦とは、母とは、女とは何なのかをもう一度見直す。	赤木 幹子
7. 17	保育室学習会	保育者から子どもたちの様子を聞き、自分たちの育児観についてもう一度考える。	佐々木京子
7. 24 8. 28 9. 4	亭主ってなんだろう	家庭での男の役割は亭主というイメージで良いのか。核家族化などで父、母、子どもという関係も大きく変化している中で、新しい亭主像を考える。	赤木 幹子
9. 11	保育室学習会	新しい育児観で、これからの保育、子どもたちの仲間づくりを考える。	下里 恵子
9. 18	これからの夫婦	女だから、男だからという概念をすて、新しい夫婦観、育児観を考える。	赤木 幹子
9. 25	自主化に向けて	講座終了後も、家族ぐるみの付き合いが続けられるよう話し合う。	

お父さんも一緒につくる保育室 父親の部

期 間 昭和62年7月18日～11月3日 全3回

会 場 公民館第2集会室及び熊川南公園

参加者 9人×3回=27人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
7. 18	男の役割って何だろうⅠ	家庭の中での男の役割とは何か。男だからしなくていい、女だからしなくてはならないということは決まってないはず。男でも女でも手のあいている方がするのが自然ではないだろうか。家事、育児はなぜ女の仕事にされているのか。	桜井 陽子
10. 7	男の役割って何だろうⅡ	男の役割とは何なのかを改めて考える場とする。	秋山 典子
11. 3	男が料理する	家族同士の付き合いができるよう南公園で男が料理し、昼食会を開催した。	

おさない子どもをもつお母さんの教室「子育てからの出発」

期 間 昭和63年1月28日（木）～3月31日（木）午前10時～正午 全9回

会 場 公民館

参加者 5人×9回=45人

月 日	テ	マ	講 師 ・ 助 言 者
1. 28	保育室について説明します		
2. 4	自分のこと、話してみませんか		
18	子育てのこと、話しましょう		
25	保護者学習会		新井恵子（保育者）
3. 3	子育てをめぐる問題を考えましょう	その1	
10	" "	その2	
17	子育て以後の再就職		富永静枝（白梅短大助教授）
24	これからの私（前回の講義をうけて話しあい）		
31	講座のまとめ（保育室に参加して）		

家庭教育学級「子育てに必要な親のかかわりとは」

期 間 昭和62年11月13日（金）～昭和63年3月18日（金）午前10時～正午 全15回

会 場 公民館

参加者 13人×15回=195人

月 日	テ	マ	講 師
11. 13	オリエンテーション		
20	自己紹介Ⅰ		
27	自己紹介Ⅱ		
12. 4	公民館保育室とはⅠ「公民館保育室の生まれてきた状況」		加藤 有孝
11	" Ⅱ「子どもをあずけて学ぶことの意味」		"
18	保護者学習会Ⅰ		中川キミ子
1. 8	子育てに必要な父親の役割Ⅰ		岡本 富郎
15	" Ⅱ		"
29	保護者学習会Ⅱ		佐々木京子
2. 5	生活リズムの意味と基本的生活習慣		岡本 富郎
19	遊びの意義と親のかかわり方		"
26	保護者学習会Ⅲ「保育日誌の読み取り」		小林富美子
3. 4	" Ⅳ 「 " 」		新井 恵子
11	" Ⅴ 「 " 」		中村けい子
18	まとめ		

昭和63年度

おさない子どもをもつお母さんの教室

期 間 昭和63年6月9日(木)～10月13日(木) 午前10時～正午 全15回

会 場 公民館

参加者 11人×15回=165人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 9	オリエンテーション	保育室について。これからのすすめ方	
16	自分のこと話しませんか	自己紹介、参加の動機	
23	子育てのこと話しませんか	子育てをされていて悩んでいること、困っていること	
30	保護者学習会	保育室に参加して気づいたこと	宍戸 夏子
7. 7	これからのすすめ方	学習プログラムをくみたてる	
14	映画「さくらんぼ坊や」鑑賞	映画をみて、自分の子育てとてらしあわせてみる	
21	女性のライフサイクルと問題点	ライフサイクルの変化と課題	富永 静枝
28	保護者学習会	子どもの成長とは?	中川キミ子
8. 25	再就職をめぐる問題 I	女性が働くことでどんなことが問題になってくるか	富永 静枝
9. 1	” II	”	”
8	” III	”	”
22	婦人労働の現状	婦人労働の現状と課題	”
29	保護者学習会	仲間の中で育つとは?	中村けい子
10. 6	保護者学習会	保育室に子どもをあずけてみてどうだったか	高崎 文江
13	講座のまとめ	これからの活動について	

わくわくコミュニケーション

期 間 昭和63年11月14日(月)～3月13日(月) 午前10時～正午 全15回

会 場 公民館

参加者 10人×15回=150人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 14	オリエンテーション	講座の説明。自己紹介	
21	まずは私たちの仲間を知ることから	自己紹介	
28	この講座に参加したのはこんな理由です	参加動機	
12. 5	保育室は託児所とは違います	公民館保育室とは	中村けい子
12	あなたの毎日充実していますか?	主婦の状況、課題	田中喜美子
19	育児書を捨てて外に出よう!	課題解決のために	和田 好子
1. 9	外に出たおんな達1～保育室にかかわって	保育室と私	佐々木京子
28	ちょっといきぬきフリータイム	前半のまとめ	
30	外に出たおんな達2～タウン紙にかかわって	タウン紙と私	野口由紀子
2. 6	子育ては女だけのものじゃない!	男性と子育て	星 健夫
13	元気印の子ども達	子どもたちの変化	宍戸 夏子
20	私達のコミュニケーションづくり	参加者の企画で	
27	”	”	
3. 6	”	”	
13	みんなでワクワクパーティー	”	

そこが知りたい、子どものこころ

期 間 昭和63年12月8日(木)～平成元年3月16日(木) 午前10時～正午 全13回

会 場 公民館

参加者 6人×13回=78人

月 日	内 容	講 師
12. 8	オリエンテーション	
15	自己紹介	
22	〃	
1. 12	公民館の保育室って	
19	こどものこころ	岡本富郎(白梅短大教授)
26	保護者学習会	宍戸夏子(公民館保育者)
2. 2	中間のまとめ	
9	おとなのこころ	岡本富郎
16	こころの育ちとは	〃
23	保護者学習会	梶谷克子(公民館保育者)
3. 2	こころのやわらかさ	岡本富郎
9	こころへの探検	
16	まとめ	

婦人学級「魅力あるお母さんでいるために」

期 間 昭和63年11月11日(金)～平成元年3月4日(金) 午前10時～正午 全15回

場 所 公民館第2集会室

参加者 10人×15回=150人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 11	オリエンテーション	学級の内容と保育室に子どもをあずける意味を説明	
18	仲間づくり	参加者全員自己紹介をしながら仲間づくりを行った	
12. 25			
12. 2			
9	身体チェック	自分の身体の若さ度をチェック	
16	保育室の様子から	保育者を交えて保育室での子どもの様子を聞く	佐々木京子
23	さあ身体を動かそう	エアロビックダンスを習いながら、身体と心をリフレッシュする	木下 和子
1. 13			
20			
27	保育室の様子から	保育者を交えて子どもの生活リズムについて聞く	高崎 文江
2. 3	家庭の生活チェック	子どもの生活リズムやしつけのことについて、各自の家庭がどのように考えているのか出し合い正しいあり方を話し合った	
10			
17	保育室の様子から	保育日誌をどのように読んだか話し合う	宍戸 夏子
24	保育室の様子から	成長とはどんなことかを話し合う	中村けい子
3. 4	自主化にむけて	講座終了後にも自主的な活動が行えるように話し合いをした	

平成元年度

そこが知りたい子どものからだ

期 間 平成元年6月5日(月)～10月2日(月) 午前10時～正午 全15回

会 場 公民館本館

参加者 13人×15回=195人

月 日	内 容	講 師
6. 5	オリエンテーション	
12	公民館保育室って	
19	自己紹介	
26	〃	
7. 3	保護者学習会	宍戸 夏子(保育者)
10	子どものからだ	
17	子どものからだどころ	正木 健雄(日体大教授)
24	保護者学習会	高崎 文江(保育者)
8. 21	最近の病気	
28	家庭での治し方	
9. 4	情報交換	
11	保護者学習会	中村けい子(保育者)
18	最近の病気	楠野 眸(福生保健所)
25	これからの課題	
10. 2	まとめ	

婦人学級「魅力あるお母さんでいるために」

期 間 平成元年6月2日(金)～10月6日(金) 午前10時～正午 全15回

会 場 公民館本館

参加者 13人×15回=195人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 2	オリエンテーション	学級の内容と保育室に子どもをあずける意味を説明	
9 16 23	仲間づくり	自己紹介文を書いてもらい、それをもとに仲間づくりの話し合いを行った	
30	保育室の様子から	保育者を交えて保育室の様子を聞いた	中村けい子
7. 7	学級をどう進めるか	参加者から学級の進め方について意見が出たので、プログラムの調整を行った	
14 21	エアロビックダンス サイズ	エアロビックダンスを中心に、身体と心をリフレッシュしながら、ゆとりとは何かを話し合った	木下 和子
28	保育室の様子から	仲間関係、生活リズムについて聞く	梶谷 克子
8. 25	夏休みの話題から	夏休み中の交流を発表した	坂本由美子
9. 1 8	エアロビックダンス サイズ	本当の健康とは身体だけではなく、心も家庭もすべてではないかという話を交えながら	木下 和子
22 26	保育室の様子から	子どもの成長とは、仲間の中で育つこととはなど、親同士、子ども同士のつながりについて話し合い	佐々木京子 宍戸 夏子
10. 6	自主化にむけて	これからの活動について	

ときめき発見講座

期 間 平成元年11月15日（水）～3月14日（水）午前10時～正午 全15回

会 場 公民館本館

参加者 15人×15回=225人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 5	オリエンテーション	講座・保育室の説明、自己紹介	
22	ときめき探検隊自己紹介	自己紹介	
6. 29	私にとってのときめきとは	参加動機と現在の生活	
12. 6	保育室は託児所とは違います	公民館保育室とは	高橋 文江 (保育者)
13	あなたの毎日充実していますか？	主婦のおかれた状況と課題	田中喜美子
20	老後にときめきはあるのか	老後の主婦と課題	(わいふ編集長)
1. 10	育児書を捨てて、外に出よう！	講師の話をきいて	
24	子どもたちだってときめいている1	保育室の子どもたちの変化	赤井久美子 (サンケイリビング 副編集長)
31	現代パート事情	主婦と仕事	
2. 7	いきいき地球人	主婦と地域活動、運動	中村 絹江 (ぐるうぶかっぼうぎ)
14	主婦だって遊びたい！	主婦と遊び	
21	ときめき発見ママになれたかな	講師の話をきいて	宍戸 夏子 (保育者)
28	子どもたちだってときめいている2	保育室の子どもたちの変化	
3. 7	パーティーを企画しよう	講座の感想とパーティーの企画	
14	みんなでときめきパーティー	参加者の企画で	

本館保育室連絡会

会 場 公民館本館

参加者 8人×4回=32人

月 日	内 容
4. 28	連絡会の趣旨説明、保育室利用について（日程など）、情報交換、今後の持ち方について
5. 27	保育室の備品などについて、保育室の整理・清掃
10. 14	保育室の利用について（日程など）、情報交換、保育室の整理・清掃
11. 30	公民館・保育室の利用について、公民館の備品について、情報交換

平成2年度

家庭教育学級「子どもを育て、自分を育てる」

期 間 平成2年5月21日（月）～10月8日（月） 午前10時～正午 全15回

会 場 公民館

参加者 13人×15回=195人

月 日	内 容	講 師
5. 21	オリエンテーション（保育室を中心に）	
28	“ （学級を中心に） 自己紹介① 月曜チェック	
6. 4	自己紹介② 月曜チェック結果発表・自分の子育てを振り返る	
11	自己紹介③ 高齢化社会と女性問題－親の介護について	
18	映画「アリサーヒトから人間への記録」を見て、話し合い	
25	保護者学習会	宍戸 夏子
7. 2	子どもの生活リズムを考える	梶谷 克子
9	フォーカス（保育記録）を読んで	田中 加代
16	保護者学習会	高崎 文江
8. 27	夏休みの生活について＝報告	
9. 3	保護者学習会	梶谷 克子
10	子どもの成長・発達について	岡本 富郎
17	岡本先生の話を受けて＝話し合い	
10. 1	子どもの成長・発達と性	佐藤 洋子
8	保護者学習会	田中 加代

ステンドグラス教室（保育室併設）

期 間 平成2年7月5日（木）～10月25日（木） 午前10時～正午 全15回

会 場 公民館

参加者 9人×15回=135人

月 日	内 容	備 考
7. 5	オリエンテーション	
12	ステンドグラス 型紙、型おこし	
19	〃 ガラスカット	
26	保育室の様子 子どもをあずけて、親の感想	保 育 者
8. 2	ステンドグラス ガラスカット	
23	〃 コパーテープ巻き	
30	〃 〃	
9. 6	子ども達の成長 仲間の中での成長と親の目	保 育 者
13	ステンドグラス ハンダづけ	
20	〃 〃	
27	〃 ステンドグラス組み立て	
10. 4	仲間同士育ち合い 子どもの育ち、親の育ち	保 育 者
11	ステンドグラス 組つけ	
18	〃 仕上げ	
25	終 了 式	

わたし 再発見 新しい自分を見つけよう

期 間 平成2年11月14日（水）～平成3年3月20日（水）午前10時～正午 全15回

会 場 公民館本館

参加者 7人×16回=112人

月 日	テ ー マ	内 容	助 言 者
11. 14	保育室について	公民館保育室について	
21	自分のこと話して みよう I	わたしのおいたち	
28	〃	〃	
12. 5	いま、女たちは	現代女性のおかれている状況、子育て期を女性の一生の中で位置づける	折井 美耶子 (女性史研究家)
12	子どもは3才まで!	3才児神話を考える。出生率低下はなぜ。子育ては女だけがやること?	〃
19	保育室の 子どもたち I	保護者学習会	高崎 文江 (公民館保育者)
1. 9	男も女も子育てを	これからの育児のあり方 世界の子育て事情	折井 美耶子 (女性史研究家)

月 日	テ ー マ	内 容	助 言 者
1. 23	保育室の 子どもたちⅡ	保護者学習会	田中 加代 (公民館保育者)
30	家事って何だろう？	我が家の家事再点検 女の仕事は家事？	折井 美耶子 (女性史研究家)
2. 6	みんなで家事を	家族みんなで家事をする。何のために？	〃
20	保育室の 子どもたちⅢ	保護者学習会	宍戸 夏子 (公民館保育者)
27	私にとっての反戦	湾岸戦争から私(たち)にとっての反戦、 何ができるかを考える	折井 美耶子 (女性史研究家)
3. 6	なぜ再就職？	働く女性の実態 なぜ女は再就職なのか？	〃
13	保育室の 子どもたちⅣ	保護者学習会	田中 加代 (公民館保育者)
20	21世紀のわたし	10年後の私をえがく	折井 美耶子 (女性史研究家)

今だから考えたい、脱専業主婦

期 間 平成2年11月9日(金)～平成3年3月8日(金) 午前10時～正午 全15回

会 場 公民館本館

参加者 12人×15回=180人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 9	オリエンテーション	講座・保育室の説明、自己紹介	
16	自己紹介	自己紹介	
30	保育室の子どもたち 1	公民館保育室とは	佐々木京子 (保育者)
12. 7	主婦の状況	主婦のおかれた状況と課題	和田 好子 (わいふ副編集長)
14	講師の話を聞いて	話し合い	
21	保育室の子どもたち 2	保育室だよりを読んで	宍戸 夏子 (保育者)
1. 11	主婦と仕事	主婦の労働状況と課題	赤井久美子 (サンケイリビング編集長)
18	講師の話を聞いて	話し合い	
25	保育室の子どもたち 3	保育室だよりを読んで	坂本由美子 (保育者)
2. 1	脱専業主婦と子育て	働く母親と子育て	田中喜美子 (わいふ編集長)
8	講師の話を聞いて	話し合い	
15	運営会議について	保育室運営会議について話し合い	
22	保育室の子どもたち 4	保育室だよりを読んで	高崎 文江 (保育者)
3. 1	脱専業主婦と子育て	働く母親と子育て	岡本 富郎 (白梅短大教授)
8	まとめ	これからの私たちの生き方	

本館保育室連絡会

会 場 公民館本館

参加者 6人×8回=48人

月 日	内 容
5. 12	部屋の片付け、模様替え、集会室の利用について
7. 25	保育室の備品について
9. 13	保育室備品の視察
26	後期主催事業、トイレ設置の署名、ドッジボール大会について
10. 26	前期保育室事業の自主グループ化に伴う保育室の使用について
11. 29	トイレ設置の署名について
1. 31	トイレ設置の署名、平成3年度備品について
3. 15	保育室備品、保育室専用トイレについて

平成3年度

子どもの成長・発達とおもちゃ

期 間 平成3年6月3日(月)～平成4年3月30日(月) 午前10時～正午 全36回

会 場 公民館本館

参加者 15人×36回=540人

内 容 預けることを通して、子育てや自分の生活をふりかえり、自分や社会を見つめなおす。動物
組み木をつくる。パズルをつくる。木馬をつくる。

講 師 公民館保育者

講座 女性学

期 間 平成3年11月7日(木)～平成4年3月26日(木) 午前10時～正午 全17回

会 場 公民館

参加者 11人×16回+6人×1回=182人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 7	保育打合せ	保育室について	保 育 者
14	女性学とフェミニズム	女性学とは何か	内藤 和美
21	女性差別とセクシズム	セクシズムが生活の中でどのようにあらわれているか。ビデオ「恥ずかしい日本人」「裏切られた夢」	(昭和女子大 助教授)
28	大人も子どもも共に育ち あうために①	保育室運営会議でのテーマで話し合う	田中 加代 (保育者)
12. 5	女性差別とセクシズム	セクシズム、性別役割分担の問題性 ビデオ「沈黙の恨」	内藤 和美
12	大人も子どもも共に育ち あうために②	保育室運営会議でのテーマで話し合う	田中 加代
1. 9	セクシズムと女性差別	セクシズム社会における「女性役割」	内藤 和美
23	「女性役割」	主婦とは何か	
30	セクシズムの諸相	人工妊娠中絶をめぐる問題から ビデオ「中絶-北と南の女たち-」	
2. 6	大人も子どもも共に育ち あうために②	保育室運営会議でのテーマで話し合う	中村けい子 (保育者)
13	これまでのまとめ	これまでの学習について自由に懇談	
20	母性を問う	母性とは何か	内藤 和美
27	中高年離婚	中高年離婚はなぜ増えているか	
3. 5	女性とアルコール依存	キッチンドリinkerをめぐる女の状況を考 える	内藤 和美
12	「強姦罪」の問題	ビデオ「告発の行方」を見て話し合う	
19	家庭科の男女共修	家庭科の男女共修、不登校の問題	内藤 和美
26	これからの私たち	ビデオ「スウェーデンの結婚と家族」をみて 話し合う	

地球にやさしいエコロジー学のスズメ

期 間 平成3年11月22日（金）～3月6日（金） 午前10時～正午 全14回

会 場 公民館本館

参加者 21人×14回=294人

月 日	テ ー マ ・ 内 容	講 師
11. 22	オリエンテーション	
29	環境問題とは	藤田 祐幸（慶応大講師）
12. 6	子どもも大人も共に育ち合う関係とは1	公民館保育者
13	水を考える1	林 英明（フリーライター）
20	水を考える2	宮岡 和紀（都立高教諭）
1. 10	子どもも大人も共に育ち合う関係とは2	公民館保育者
17	ゴミを考える1	山本 耕平（ダイナックス 都市環境研究所）
24	ゴミを考える2	藤原 寿和（廃棄物を 考える市民の会）
31	子どもも大人も共に育ち合う関係とは3	公民館保育者
2. 7	誰にでもできる環境調査	大和田 一紘
14	私たちで行動してみよう	（中央大学社会科学研究所）
21	環境問題とリサイクル	
28	子どもも大人も共に育ち合う関係とは4	公民館保育者
3. 6	今、私たちにできることは	大和田 一紘 （中央大学社会科学研究所）

保育室運営会議

期 間 平成3年6月29日（土）～平成4年3月14日（土） 全9回

会 場 公民館

参加者 延べ 73人

月 日	内 容
6. 29	豊かな人間関係とは何かを保育室に参加したきっかけ、動機をもとに話し合う
7. 20	保育日誌をもとに人と人との関わりについて話し合う
8. 31	人が育ちあう「豊かな人間関係」とは何かを保育日誌をもとに話し合う
9. 28	人が育ちあう「豊かな人間関係」とは何か
11. 30	子どもをあずけようとしたきっかけ、動機を話す中から、女性が置かれている状況や子どもの状況を話し合う
12. 19	前回の課題を話し合う
1. 25	前回の課題を話し合う
2. 22	前回の課題を話し合う
3. 14	子育て真っ最中、夫と妻がどう向き合っているのか、話し合う

本館保育室連絡会

期 間 平成3年4月13日（土）～平成4年3月16日（月） 全7回

会 場 公民館

参加者 延べ31人

月 日	内 容
4. 13	おもちゃ、備品の整理、清掃、平成3年度の保育室事業について、他市の保育室視察について
5. 23	他市の保育室視察報告、平成3年度の保育室事業について、ベビーベッドの取扱いについて、他の部屋の利用について、保育室運営会議について
7. 10	保育室以外の部屋の利用について
9. 5	保育室トイレ、手洗い場設置の経過報告、保育室後期主催事業について
11. 13	平成4年度の保育室備品について、保育室改築工事期間について、保育室後期主催事業について、保育室運営会議について
12. 14	保育室清掃、整理
3. 16	保育室備品について

平成4年度

女の問題を考える講座

期 間 平成4年6月3日(水)～12月9日(水) 午前10時～正午 全22回

会 場 公民館

参加者 10人×22回=220人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 3	保育打合せ	保育室について	保 育 者
10	私にとっての女の問題	自己紹介、各自の問題を出し合う	
17	〃	各自の問題を出し合う	
24	大人も子どもも共に育ちあうために①	保育室運営会議でのテーマで話し合う	田中 加代 (保育者)
7. 1	何を学習にしていくな	共通の課題をさぐる	
8	〃	〃	
15	〃	〃	
22	大人も子どもも共に育ちあうために②	保育室運営会議でのテーマで話し合う	高崎 文江 (保育者)
8. 26	フェミニズム、性差別	女性差別とは何か	内藤 和美 (昭和女子大学)
9. 2	性別役割分担	性役割、女性役割	
9	「ケア役割」を越えて	主婦、家事労働	
12	男性参加の育児について	子育てに関わろうとしたきっかけ、子育てを通して気づいたこと	星 健男 (男の子育てを考える会)
23	これからの女と男	パートナーシップを考える	〃
30	大人も子どもも共に育ちあうために③	保育室運営会議でのテーマで話し合う	田中 加代 (保育者)
10. 7	日本の高齢化社会が女性になげかける問題	高齢化社会の現状と女性にとっての課題	直井 道子 (学芸大学助教授)
14	家と夫婦の氏	夫婦別姓が問いかけるもの	内藤 和美
21	これからの学習について	これまでの学習をふまえて考える	
28	大人も子どもも共に育ちあうために④	保育室運営会議でのテーマで話し合う	高崎 文江
11. 11	地域で活躍する女性	地域で活動するようになったきっかけ、子育てで大事にしたこと、夫婦の関わり、関係	中川キミ子 (福生市女性問題連絡会)
18	前回の話を受けて	前回の話をどう受けとめたか	
12. 2	大人も子どもも共に育ちあうために⑤	保育室運営会議でのテーマで話し合う	高崎 文江
9	講座のまとめ	講座を通して学んだこと、これらの活動について	

子どもの成長・発達とおもちゃ

期 間 平成4年5月30日（土）～平成5年1月9日（土）午前10時～正午 全20回

会 場 公民館本館

内 容 預けることを通して、子育てや自分の生活をふりかえり、自分や社会を見つめ直す。動物組み木をつくる。パズルをつくる。

講 師 公民館保育者

参加者 10人×20回=200人

幼児教育学級

期 間 平成5年1月7日（木）～3月25日（木） 全15回

会 場 公民館

参加者 10人×15回=150人

月 日	内 容	備 考
1. 7	オリエンテーション	話し合い、紹介他
14	幼児期の成長・発達について I	大堀 容子（幼児教育研究）
21	私達の子育てについて	話し合い
28	幼児期の成長・発達について II	大堀 容子
2. 4	保育室での子どもの様子 (1)	保育者
6	私達の生活・家庭づくり	話し合い
11	少年非行と幼児期	川辺 進（保護司）
13	生物である人間と育児	宮岡 一雄（明治大学教授）
18	私達の地域での仲間づくり	話し合い
25	保育室での子どもの様子 (2)	保育者
3. 4	ひとと人とのコミュニケーション	川辺 進
6	地域に子どもの遊びの機会づくりを！	話し合い
11	世田谷のプレイパーク実践から	天野秀明プレイリーダー
18	保育室での子どもの様子 (3)	保育者
25	私達のこれからの活動について	話し合い

保育室運営会議

期 間 平成4年5月23日（土）～平成5年3月13日（土） 全11回

会 場 公民館

参加者 延べ 129人

月 日	内 容
5. 23	子どもを預けて大人が学習している中での悩み、課題を出し合い、考える
6. 20	「泣く」ことから子どもが育つ道筋を考える
7. 18	保育日誌「ちょっとまって」から集団の中から育つもの考える
8. 20	保育日誌「お母さんはどこ」から子どもにどのように関わろうとしているか、3歳児神話を考える
9. 19	子どもとどのように向き合おうとしているか
10. 24	レポートをもとに子どもとどのように向き合おうとしているか話し合う
11. 21	レポートをもとに「子どもをあずける、あずかる」ことを考える
12. 19	レポート「講座に参加して見えてきたこと」を通して話し合う
1. 23	レポート「輝く将来に向かって」をもとに話し合う
2. 20	レポート「『良妻』から一人の人間として」をもとに話し合う
3. 13	レポート「性別役割分業を越えて自分らしく生きていくために」をもとに話し合う

本館保育室連絡会

期 間 平成4年5月18日（月）～平成5年1月26日（火） 全10回

会 場 公民館

参加者 延べ80人

月 日	内 容
5. 18	平成4年度の保育室事業について
27	保育室の整理、清掃
6. 3	保育室改築について
7. 20	保育室改築について
8. 6	保育室改築について（内装）
9. 4	保育室清掃、片づけ、新しくなった保育室の使い方について
17	保育室以外の部屋での保育使用について
11. 12	音楽室の使用について、後期主催事業について、団体事務室のオモチャについて
12. 10	保育室清掃、整理、公民館利用者ネットワークの保育について
1. 26	公民館利用者ネットワークの保育について

平成5年度

子どもの成長・発達とおもちゃ

期 間 平成5年6月2日（水）～平成6年3月30日（水）午前10時～正午 全33回

会 場 公民館本館

内 容 預けることを通して、子育てや自分自身の生活をふりかえり、自分や社会を見つめなおす。
子どもの成長・発達とおもちゃの関係について学び合う。おもちゃの製作。

講 師 樋口正春（専門家） 公民館保育者

参加者 9人×33回=297人

女性問題講座「母と子の暮らしをひらく」

期 間 平成5年10月8日（金）～平成6年3月25日（金）午前10時～正午 全20回

会 場 公民館本館

参加者 18人×20回=360人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
10. 8	保育打合せ	保育室について	保 育 室
15	学習会	保育室運営会議でのテーマで話し合う	高崎 文江 (保育者)
22	私にとっての女の問題	自己紹介、参加の動機、自分にとって何が女性問題か	
29	性別役割分担について	性別役割分担とは何か	内藤 和美 (昭和女子大 助教授)
11. 12	性別役割分担について	戦後日本における性別役割分担形成の過程について	
19	学習会	保育室運営会議でのテーマで話し合う	高崎 文江
26	「女性役割」をめぐる困難	「女性役割」とは何か	内藤 和美
12. 3	「女性役割」をめぐる困難	「女性役割」をめぐる	
10	学習会	保育室運営会議でのテーマで話し合う	佐々木京子 (保育者)
17	「主婦」という制度	「主婦」とは何か	内藤 和美
1. 14	「母性」を越えて	「母性」とは何か、「母性」をめぐる問題	
21	〃	〃	
28	学習会	保育室運営会議でのテーマで話し合う	田中 加代
2. 4	女性差別とは何か 男女平等とは	女性差別とは 男女平等について	内藤 和美
18	「家」と戸籍と氏と墓	「家」と戸籍と氏と墓をめぐる問題	
25	「家」と戸籍と氏と墓	「家」と戸籍と氏と墓をめぐる問題	
3. 4	学習会	保育室運営会議でのテーマで話し合う	高崎 文江
11	中絶をめぐる	中絶をめぐる問題について（ビデオ）	内藤 和美
18	〃	〃	
25	学習会	保育室運営会議でのテーマで話し合う	田中 加代

保育室運営会議

期 間 平成5年5月29日（土）～平成6年3月19日（土） 全11回

会 場 公民館本館

参加者 延べ 82人

月 日	内 容
5. 29	5年度保育室運営会議について
6. 19	子どもをあずけて学習すること、保育室活動がどうあったらいいのか
7. 10	子どもの成長・発達をどうとらえるか、保育日誌から話し合う
8. 20	レポートを通し、「成長」をどうとらえているのか話し合う
9. 18	レポートを通し、子どもをあずけて大人が学習するということを考える
10. 9	保育日誌をもとに「仲間」にどういう期待を求めているのか話し合う
11. 13	「あじさい」のレポートをもとに話し合う
12. 4	保育日誌をもとに大人がどんな子ども集団を作ろうとしていくのか考える
1. 22	集団をどうとらえているか、話しあう
2. 26	質のよい集団の中味は何か、保育日誌をもとに話しあう
3. 19	レポートをもとに、自分にとって何が成長であったか、子どもをあずけることを通してどのように変わっていったかを話し合う

本館保育室連絡会

期 間 平成5年4月7日（水）～12月11日（土） 全6回

会 場 公民館本館

参加者 延べ40人

月 日	内 容
4. 7	保育室の清掃、5年度保育室事業について
6. 11	保育室のおもちゃについて
7. 2	保育室の清掃
10. 21	保育室のおもちゃについて
11. 16	トイレ関係の要望について
12. 11	保育室の清掃、団体事務室のおもちゃ整理

平成6年度

女性問題講座「母と子の暮らしをひらく」

期 間 平成6年6月22日（水）～平成6年11月30日（水）午前10時～正午 全18回

会 場 公民館本館

参加者 14人×18回=252人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
6. 29	はじめに	自己紹介・講座について	
7. 6	学習会	保育室運営会議でのテーマで話し合う	田中 加代 (保育者)
13	私にとって女の問題	参加の動機、自分にとっての女性問題	
20	”	”	
27	性別役割分担ということ	性別役割分担とは、その問題性	内藤 和美 (昭和女子大助教授)
8. 17	”	”	”
24	「女性役割」を巡る困難	「女性役割」とは、女性の主体性の回復と自立	”
31	学習会	保育室運営会議でのテーマで話し合う	田中 加代
9. 7	「主婦」という制度	「主婦」とは、「主婦」をめぐる問題	内藤 和美
14	「家」と戸籍と氏と墓	女性学がなぜこれを問題にするのか	”
21	「家」と戸籍と氏と墓	変革に向けて	”
28	「福岡裁判」について	「福岡裁判」から学ぶもの	”
10. 5	学習会	保育室運営会議でのテーマで話し合う	田中 加代
12	講座から学んだこと	講座から何を学んだか	
19	「女性問題審議会」の提言をよむ	女性問題の視点で提言を読み直す	中川キミ子 (福生市女性問題審議会委員)
26	「女性問題審議会」の提言をよむ	女性問題の視点で提言を読み直す	高木とし子 (福生市女性問題審議会委員)
11. 9	学習会	保育室運営会議でのテーマで話し合う	田中 加代
16	講座のまとめ	講座から何を学んだか	
30	学習会	保育室運営会議でのテーマで話し合う	田中 加代

講座「主婦－再出発の設計図」

期 間 平成6年11月11日（金）～平成7年3月31日（金）午前10時～正午 全18回

会 場 公民館集会室

参加者 17人×18回＝306人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 5	オリエンテーション	保育室の説明、講座の趣旨説明	担 当 職 員
25	講座オリエンテーション	子どもを預けることと女性問題。映画「町の政治」鑑賞	担 当 職 員
12. 2	お互いに良く知り合うために	課題の自己紹介作文を通し、自己紹介と参加動機の紹介	
9	子どもの成長発達	自己紹介の続き、ビデオ「さくらんぼ坊や2」を観る	
16	子どもの成長発達	映画「さくらんぼ坊や3」を観て話し合い	
1. 6	保育学習会	運営会議の課題を受けて、話し合い	高崎 文江 (保育者)
13	女性史を学ぶ	なぜ女性史を学ぶのか、古代から前近代まで	折井 美耶子 (女性史研究家)
20	女性史を学ぶ	近代の女性Ⅰ	折井 美耶子 (女性史研究家)
27	女性史を学ぶ	近代の女性Ⅱ	折井 美耶子 (女性史研究家)
2. 3	保育学習会	運営会議の課題を受けて、話し合い	高崎 文江 (保育者)
10	女性史を学ぶ	戦後の女性Ⅰ	折井 美耶子 (女性史研究家)
17	女性史を学ぶ	戦後の女性Ⅱ	折井 美耶子 (女性史研究家)
24	女性史を学ぶ	戦後の女性Ⅲ	折井 美耶子 (女性史研究家)
3. 3	保育学習会	運営会議の課題を受けて、話し合い	高崎 文江 (保育者)
10	保育学習会	運営会議の課題を受けて、話し合い	高崎 文江 (保育者)
17	私の歩みと女性問題	講師の生き方から自身のこれからの創造する	折井 美耶子 (女性史研究家)
24	子育てとこれからの私達の歩み	子どもの成長、私の成長、子育てと女性問題	佐々木京子 (保育者)
31	子育てとこれからの私達の歩み	子どもの成長、私の成長、子育てと女性問題	田中 加代 (保育者)

保育室運営会議

期 間 平成6年7月2日（土）～平成7年3月4日（土） 全9回

会 場 公民館本館

参加者 延べ88人

月 日	内 容
7. 2	どのようなあずけ方、あずかり方をしたら子どもたちにとって良いのだろうか
8. 27	保育室にあずけて見えたことを話し合い、保育室に求めるものを確かめる
9. 17	保育室が目指している子ども集団とは
10. 29	保育室が求めている集団の質とは
11. 26	保育室が求めている集団の質とは
12. 17	「育ち」、集団の「質」とは何か
1. 28	集団保育の意味を考える、集団保育で何が育つのか
2. 18	公民館保育室で大事にしていきたいこと
3. 4	公民館保育室は何を大切にしているか

本館保育室連絡会

期 間 平成6年4月27日（水）～12月14日（水） 全6回

会 場 公民館本館

参加者 延べ53人

月 日	内 容
4. 27	6年度保育室事業について、清掃
5. 27	保育遊具の修理、保育室の使い方について
7. 8	保育日誌をもとに保育の視点を確かめる
9. 9	保育日誌をもとに保育の視点を確かめる
11. 19	保育室の使い方について、備品について
12. 14	保育室の清掃

平成7年度

女性学講座

期 間 平成7年6月2日（金）～12月22日（金） 午前10時～正午 全26回

会 場 公民館本館

参加者 16人×26回=416人

月 日	内 容	講 師
6. 2	保育室オリエンテーション	担当職員
9	講座オリエンテーション	内藤 和美 (昭和女子大学 助教授)
16	女（性）であること(1)	
23	” (2)	
30	(1)(2)を受けての話し合い	担当職員
7. 7	女（性）であること(3)・主婦という制度	内藤 和美
14	学習会	田中 加代 (保育者)
21	”	
28	わたしたちのオールタナティブ(1)	内藤 和美
8. 18	” (2)	
25	「女性差別」とは何か(1)	
9. 1	学習会	田中 加代
8	「女性差別」とは何か(2)	内藤 和美
22	女性への暴力(1)	
29	” (2)	
10. 6	学習会	田中 加代
13	世界の女性は何をめざすか①	担当職員
20	” ②	
27	学習会	田中 加代
11. 10	日本的なるもの(1)	内藤 和美
17	” (2)	
24	「家」と氏と戸籍と墓(1)	
12. 1	世界の女性は何をめざすか③	担当職員
8	学習会	田中 加代
15	「家」と氏と戸籍と墓(2)	内藤 和美
22	講座のまとめ	担当職員

「女性史講座－戦後女性史を学ぶ」

期 間 平成7年11月1日（水）～平成8年3月27日（水） 午前10時～正午 全19回

会 場 公民館本館

参加者 延べ参加者数 86人

月 日	テ ー マ	内 容	講 師
11. 1	オリエンテー ション	保育室の説明	
8	オリエンテー ション	講座の趣旨説明、自己紹介	
15	お互いを良く知り 合うために	参加動機の紹介	
22	女性史を学ぶ	女性の参政権について	折井美耶子（女性史研究家）
29	女性史を学ぶ	労働の問題について	折井美耶子（女性史研究家）
12. 6	保育学習会	運営会議のテーマに基づいた話し合い	田中 加代（保育者）
13	保育学習会	育児について話し合う	
20	保育学習会	育児について話し合う	
1. 10	保育学習会	運営会議のテーマに基づいた話し合い	佐々木京子（保育者）
17	女性史を学ぶ	主婦論争について	折井美耶子（女性史研究家）
24	女性史を学ぶ	平和と暮らしを守る運動について	折井美耶子（女性史研究家）
31	女性史を学ぶ	講義のまとめ	折井美耶子（女性史研究家）
2. 7	自分史を書く	自分の歴史を年表にまとめる	
14	保育学習会	運営会議のテーマに基づいた話し合い	佐々木京子（保育者）
21	自分史を書く	自分の歴史を年表にまとめる	
28	保育学習会	運営会議のテーマに基づいた話し合い	佐々木京子（保育者）
3. 6	これまでの自分	自分の歴史を発表する	
13	これからの自分	自分のライフプランを年表にまとめる	
27	保育学習会	運営会議のテーマに基づいた話し合い	佐々木京子（保育者）

保育室運営会議

期 間 平成7年8月26日（土）～平成8年3月16日（土） 午前10時～正午 全8回

会 場 公民館本館

参加者 57人

月 日	内 容
8. 26	「泣く」ことをどうとらえ、どう支えようとしているのか。大人がどう働きかけようとしているのか。(母親が) どんな見通しをもっているのか
9. 30	子どもと子どもを豊かにしていくものは何か。どういう質の人と人との関係を求めて行くか
10. 21	子どもをどう関わらせていきたいか、どう結ばせていきたいか
11. 18	保育室に子どもをあずけることを通して、気づいたこと、はっとしたことのレポートをもとに話し合う
12. 16	子どものどんな成長が大事と思うか。何を成長ととらえるか
1. 27	子どもの成長に向けて、どういう人間関係の結び方をしていくのか
2. 24	子どもの社会性とは
3. 16	子どもの発達年令に合わせてどう関わるか

本館保育室連絡会

期 間 平成7年4月11日(火)～平成8年3月13日(水) 午前10時～正午
12月のみ午後1時30～3時 全8回

会 場 公民館本館

参加者 55人

月 日	内 容
4. 11	7年度保育室の利用について・保育室の使い方について
6. 15	自主グループ活動の中で悩みや問題を出し合い、どうしたらよいかを考える
7. 13	「公民館のつどい」について・公民館活動の在り方考える
9. 19	自主グループ活動の中で悩みや問題を出し合い、どうしたらよいかを考える
11. 21	”
12. 17	保育室の清掃、片づけ
1. 18	新年度についての情報交換
3. 13	8年度保育室の利用について

平成8年度

講座「明日からの自分の生き方をさぐる」

期 間 平成8年9月6日（金）～平成9年3月28日（金）午前10時～正午 全24回

会 場 公民館本館

参加者 延べ参加者数168人

月 日	内 容	講 師
9. 6	保育室オリエンテーション	担当職員 保育者
13	講座オリエンテーション	担当職員
20	お互いをよく知り合うために（自己紹介、参加動機など）	担当職員
27	子どもをとりまく環境の変化	長嶋 安男
10. 4	家族の変化	（家族社会学研究家）
18	保育室学習会	中村 けい子（保育者）
25	家族に関わる民法の改正をめぐって	長嶋 安男
11. 8	歴史を学ぶということ	石崎 昇子（女性史研究家）
15	保育室学習会	中村 けい子
22	つくられてきた「良妻賢母」	石崎 昇子
29	ビデオ「生きている間に語りたかった」を見て	石崎 昇子
12. 6	祖母の時代	石崎 昇子
13	保育室学習会	中村 けい子
1. 10	祖母の時代（教育）	石崎 昇子
17	保育室学習会	中村 けい子
24	近代史に見る女性の歩みⅠ（婦人参政権）	石崎 昇子
31	近代史に見る女性の歩みⅡ（子どもと母の権利を求める）	石崎 昇子
2. 7	保育室学習会	中村 けい子
14	ビデオ「婦選は鍵なり」を見て	石崎 昇子
21	これからの家族Ⅰ	石崎 昇子
28	これからの家族Ⅱ	石崎 昇子
3. 7	これからの家族Ⅲ	石崎 昇子
14	保育室学習会	中村 けい子
28	講座のまとめ	担当職員

保育室運営会議

期 間 平成8年10月5日（土）～平成9年3月8日（土） 全6回 午前10時～正午
 会 場 公民館本館
 参加者 63人

月 日	内 容
10. 5	泣くことをどうとらえ、仲間との関わりへむけてどう支えていくか。
11. 9	仲間の中で育つということ。どのような質の人と人との関係を求めていくか。
12. 7	仲間の中で子どものどのような力を育てたいのか。
1. 11	仲間の中で互いに期待しあえる関係をどのように育てていくか。
2. 1	子どものどのような力を育てるのか。どのような質の仲間関係を育てていくのか。
3. 8	仲間の中で育つということはどうとらえるか。どのような質の仲間関係を育てていくのか。

本館保育室利用者連絡会

期 間 平成8年4月19日（金）～平成9年2月20日（木） 午前10時～正午 全6回
 会 場 公民館本館
 参加者 54人

月 日	内 容
4. 19	保育室の清掃、保育室の使い方について、本館利用者連絡会の報告
6. 21	保育室の使い方について、本館利用者連絡会の報告、公民館のつどいについて
8. 30	おもちゃの片付け、本館利用者連絡会の報告
10. 17	本館利用者連絡会の報告、各サークルの活動の中での悩みや問題を出し合う
12. 11	保育室の清掃、箱積み木の修理、本館利用者連絡会の報告
2. 20	本館利用者連絡会の報告、来年度休館中の活動について、公民館への要望について